

## 10月18日 後期始業式でのお話

今日は後期始業式です。

始業式に当たり、校長先生からは「1万時間の法則」というお話をします。

これは、イギリスの人の書いた本の中で紹介している内容で、

どのような分野でも、それについての練習、努力、勉強に、

およそ1万時間を費やした人は、

その分野で専門家や秀でた存在になっているという

彼の経験に基づいた考え方です。

1万時間というのは、毎日3時間ずつ取り組んで、10年間を必要とする時間です。

ある音楽学校で、

コンサートを開けるレベルの「プロの音楽家」になる人と

音楽を人に教えるレベルの「音楽の先生」になる人のその練習量を比べた時に、

プロの音楽家になる人の練習量の方が大変に多かった。

そして、その練習量はおよそ1万時間だったという話があります。

この「1万時間」は一つの目安ですし、

分野やそのひとの取組の質によっても違います。

でも才能が「ある」とか「ない」とかで片付けられやすい、行く末の秀で方の違いが、

実は、そのことに関わった時間に大きく関係しているということも、

皆さんは一つの事実として知っておくとよいと思います。

「才能」はもともと持っている力であって、

才能があれば何の苦勞もなしにできると思われがちです。

でもそれは、この「1万時間の法則」の話を基にすると、全くもって事実ではありません。

長く続けようとする熱い思いや、努力があつてこそ、

そのもっている力が生かされる、さらに大きく、強いものになる、

それが正しい「1万時間の法則」の捉え方です。

さあ後期が始まりました。

「継続は力なり」

何かを誠実にまっすぐにし続けることで、力がついていきます。

皆さんは何を続けていきますか。